



博物館だより

K O B E C I T Y M U S E U M

No.117

2020・春



- コートールド美術館展 魅惑の印象派 ————— P.2~3
- 和のガラス — 暮らしを彩ったびいどろ、ぎやまん ————— P.4
- 兵庫の書展 兵庫県書作家協会創立70周年記念 -2020 令和からの発信- P.4



スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
休館日	6・13・20・27	7・11・18・25	1・8・15・22~30	1~3・6・13・20~22・27	3・11・17・24・31	7・14・23~28
特別展示室1 (3階)	3/28~6/21 コートールド美術館展 魅惑の印象派			7/23~9/22 兵庫の書展 兵庫県書作家協会創立70周年記念 -2020 令和からの発信-		
南蛮美術館室 (2階)				7/23~9/22 和のガラス -暮らしを彩ったびいどろ・ぎやまん-		
特別展示室2 (2階)						
ホール (1階)						
神戸の歴史展示室 (1階)	港の歩みを中心に、神戸の歴史と文化を紹介する展示					
地域文化財展示 (1階)	3/28~6/21 兵庫津絵図			7/4~9/22 弥生時代の高地性集落		
コレクション展示【考古・歴史】 (2階)	3/28~6/21 神戸レトロ名所案内 (途中展示替えあり)			7/4~9/22 神戸のお経		
コレクション展示【美術】 (2階)	3/17~5/6 平井コレクション 受贈記念	5/8~6/21 司馬江漢の風景画		7/4~8/30 描かれた動物たち		9/1~10/18 洋画コレクションより 空間を見極める
コレクション展示【古地図】 (2階)	住まいを飾るたのしみ		5/8~6/21 地図でみる世界	7/4~8/30 地図を作る人 I 長久保赤水		9/1~10/18 江戸時代の都市図
コレクション展示【びいどろ・ぎやまん・ガラス】 (2階)	3/17~5/10 かわいい・びいどろ	5/12~6/21 "涼"のガラス		7/4~8/16 びいどろ史料館コレクションの 絵画・文献資料	8/18~10/18 輸入ぎやまん	
ザビエル (2階)	「聖フランシスコ・ザビエル像」複製展示 オリジナル像の展示は11/3~11/29					
桜ヶ丘銅鐸・銅戈 (2階)	「国宝桜ヶ丘銅鐸・銅戈」実物展示 一部が複製品になる時期があります					

展覧会情報

なごみ 和のガラス — 暮らしを彩ったびいどろ・ぎやまん

会期：令和2年(2020)7月23日(木・祝)~9月22日(火・祝)

主催：神戸市立博物館、読売新聞社

弦朝顔ガラス盃 江戸時代(1772-1844) 当館蔵(びいどろ史料館コレクション)



神戸市立博物館だより No.117 (2020・春)

発行年月日 令和2年(2020)3月25日

編集・発行 神戸市立博物館

〒650-0034

神戸市中央区京町24番地

TEL. (078)391-0035

FAX. (078)392-7054

神戸市立博物館公式ホームページ

<https://www.kobecitymuseum.jp/>



公式Twitter・Facebook @kobemuseum

神戸市広報印刷物登録 令和元年度 第453-2号 広報印刷物規格A-5類



特別展
コートールド美術館展
 魅惑の印象派

令和2年3月28日(土)～
 6月21日(日)



サマセットハウス内の
 コートールド美術館、ロンドン

ロンドンのコートールド美術館は、印象派やポスト印象派の優れた作品を所蔵していることで知られています。本展覧会は、美術館の改修工事により多くの名品が来日することとなり実現しました。

展覧会の構成は、「画家の言葉から読み解く」「時代背景から読み解く」「素材・技法から読み解く」の3章から成り、「読み解く」というキーワードによって、作品を鑑賞していただく内容となっています。コー



フィンセント・ファン・ゴッホ《花咲く桃の木々》
 1889年 油彩、カンヴァス コートールド美術館
 © Courtauld Gallery (The Samuel Courtauld Trust)

果樹園では、小さな桃の花々が花盛りだーこの地のすべては小さく、庭、畑、庭、木々、山々でさえまるで日本の風景画のようだ。だから、私はこのモチーフに惹かれたのだ」と、画家のシニヤックにあてた手紙に書き綴っています。南仏アルルに移り住んだゴッホは、アルルに日本の風景を重ねて数多くの風景画を手がけました。この地のすべては小さく(中略)まるで日本の風景画のようだ」とありますから、ゴッホにとって、日本といえば「小さい(繊細)」というのがひとつのイメージとしてあったのでしょうか。

「時代背景から読み解く」

19世紀になり産業化が急速に進んだ社会において、人々の生活や余暇の過ごし方にも変化が訪れます。街

コートールド美術館が研究機関であるという側面にも注目し、美術史研究や科学的調査の成果も取り入れながら、作品を紹介します。

作品の読み解きは、展覧会会場でもじっくりとお楽しみいただけますので、ここでは、まずコレクションのはじまりについてご紹介いたします。

サミュエル・コートールドとエリザベス

コートールド美術館の印象派及びポスト印象派の優れた美術作品を収集したのは、イギリスの実業家、サミュエル・コートールド(1876-1947)です。サミュエルは、18世紀末から絹織物の事業を営んでいたコートールド家の仕事を引き継ぐために、大学に進学することは考えず、三年半、ドイツおよびフランスにおいて、事業に必要なことを学ぶ見習いとして、経験を積みました。一説によると、外国で暮らしたこの数年間、のちに芸術の分野における支援で大きな貢献をすることになるサミュエルの、祖国と祖先への深い愛を確立させたのだとも言われています。

その後、サミュエルは、1898年に帰国し、親友のアーサーに招かれ

は大きく姿を変え、劇場やミュージックホール、カフェなどが次々と開店し、人工照明の普及により、人々は昼夜を問わずさまざまな娯楽を楽しむようになりました。



ピエール・オーギュスト・ルノワール《機敷席》1874年 油彩、カンヴァス コートールド美術館
 © Courtauld Gallery (The Samuel Courtauld Trust)

大胆な縞のドレスに身を包んだ女性。髪や胸元に花を飾り、幾重にも連なる真珠の首飾りや耳飾り、金色のブレスレットがまばゆく輝いています。劇場内は、彼女のように着飾った人々であふれているのでしょうか。隣に座る男性は、他の女性たちを見ているのかもしれない。描かれた人物のまなざしやしぐさから、さまざまな感情や状況を想像することができます。

マネの《フォリー＝ベルジェールのバー》。中央に立つバーメイドと、鏡の中に映る彼女の後姿に向かいあ

て参加したダンスパーティーで、エリザベスと出会います。エリザベスの素晴らしい才気と生き生きとした魅力に心を奪われたサミュエルは、1901年に彼女と結婚します。二人の新しい生活は、音楽、芸術、読書、スポーツ、そして、人々との交流への関心を共有することにより、豊かに育まれてゆきました。エリザベスは、音楽、とりわけオペラの上演に関して最も情熱を傾け、財政的な支援のみならず、芸術的な質を高めることへの貢献も惜しみませんでした。

サミュエルの事業も、新たに人工シルクの製造に参入することによって巨額の富を築きます。会長に就任したサミュエルは、1922年から絵画の購入を始め、印象派および後期印象派の作品をはじめとする、現在のコートールド美術館のコレクションの主要な作品収集を成し遂げたのは、エリザベスが亡くなる1931年までの、十年にも満たない期間のことでした。

サミュエルとエリザベスは、1926年から、19世紀の偉大な建築家、ロバート・アダムの設計による邸宅「ホーム・ハウス」に暮らし始めます。邸宅は、サミュエルが収集した印象派の絵画で飾られ、またエリザベス

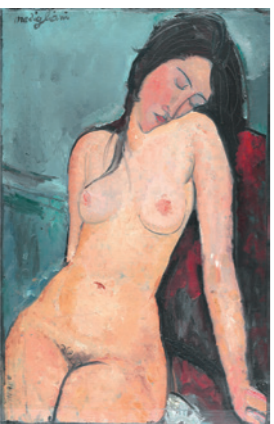


エドゥアール・マネ《フォリー＝ベルジェールのバー》
 1882年 油彩、カンヴァス コートールド美術館
 © Courtauld Gallery (The Samuel Courtauld Trust)

う帽子を被った男性、そして小さく映った人々の姿。画面を注意深く眺めると、それぞれの位置関係に違和感を覚えて別世界に誘われるようです。絵画が現実をそのまま写したものではないことや画家の意図に思いを巡らせる楽しみを深く味わうことができる作品です。

「技法・材質から読み解く」

このモディリアーニの作品は、X



アメデオ・モディリアーニ《裸婦》
 1916年頃 油彩、カンヴァス
 コートールド美術館
 © Courtauld Gallery (The Samuel Courtauld Trust)

の心をとらえて離さなかった、音楽のためのサロンとして、大切な芸術的空間となりました。しかし、エリザベスがなくなったのち、この、ロンドンで最も優雅なおもてなしに満ちた、「ホーム・ハウス」に暮らし続けることがつらくなったサミュエルは、1932年にロンドン大学に美術研究所が創設されることが決まると、コレクションの中核をなす作品と多額の助成金に加えて、彼の自邸をも寄贈することを決意しました。エリザベスを失ったのち、しばらく収集活動を中断したサミュエルでしたが、芸術のための活動には積極的に関わり続けます。やがて、彼に刺激を受けた美術愛好家たちが、コートールド美術研究所にコレクションを寄贈するようになり、コレクションは寄贈と遺贈によって拡大し続け現在に至るといいます。コレクションの幅も印象派、ポスト印象派にとどまらず、幅広い時代の美術品が収集されました。

「画家の言葉から読み解く」

日本では絶大な人気を誇るゴッホ。彼が日本への憧れを抱きつつ制作していたことはよく知られています。《花咲く桃の木々》についてゴッホは、「前景の葎の垣根に囲まれた

線調査の結果、初期の塗りにおいて、顔と身体の筆遣いが全く異なっていることが判明しました。身体はうろこ状の粗い筆致で描かれ、顔の部分は細い筆で薄く絵具を施しています。技法に変化をつけることで、モデルの外観をより魅力的な表現に高めようとしたのでしょうか。こうした調査は、わたしたちが絵画から受ける印象を、科学的な側面からも分析し裏付けることができるという点で、重要なことであると考えられます。



エドガー・ドガ《舞台上の二人の踊り子》
 1874年 油彩、カンヴァス
 コートールド美術館
 © Courtauld Gallery (The Samuel Courtauld Trust)

展覧会では、コレクション成立の背景やコレクターにも思いをはせながら、輝く色彩によって表現された、数々の印象派絵画の名品をお楽しみいただけます。

(辻 智美)

特別展
和のガラス

「くらしを彩ったびいどろ、ぎやまん

令和2年7月23日(木・祝)～

9月22日(火・祝)

わたしたちが生活する中で、ごく当たり前存在となっている「ガラス」。日本で本格的につくられ始めたのは17世紀半ば頃といわれています。江戸時代のガラスは、「びいどろ」、「ぎやまん」と呼ばれ、輸入されてきたヨーロッパ製のガラスや洋書を参考に発展していきました。私たちのゆがみがあるものや、青や黄の色彩を帯びた無色のガラスの作例が散見されますが、この素朴で、自然な造形は今日では魅力のひとつになっています。

本展の構成は、成形や装飾技法を紹介する「和ガラスのかたち」、当時の人々が使用していた「くらしの中の和ガラス」、19世紀に登場する「和製ぎやまん」、箱書きなどを読み解きながらガラス器の伝来をさぐる「伝わるガラス」の4つの章から成ります。当時の人々がどのようにガラスを味わい、楽しみ、今日まで伝えたのかを浮き彫りにすることで、

和ガラスの魅力に親しむ機会になれば幸いです。

和製ぎやまん

本稿では、江戸切子や薩摩切子に代表される「和製ぎやまん」をご紹介します。「ぎやまん」とは、ポルトガル語でダイヤモンドを意味する「diamante」に由来し、そもそもヨーロッパ製のカットガラスを指していました。和製ぎやまんの登場は、19世紀はじめ。日本のガラス製造において、「徐冷」と呼ばれる技術が発達し、厚手の生地ガラス器が生産されるようになります。これにより、ガラスの表面にカットを施す「切子」が可能となります。当時のヨーロッパ製のカットガラスとは異なり、日本では水溶性金剛砂を用いて、棒状工具で往復研磨して加工しました。多大な時間と労力を要した切子からは、機械彫りとは異なる、温も



手彫り薩摩切子紫色被せガラス脚付杯 (当館蔵 びいどろ史料庫コレクション)

りや柔らかかさといったものを感じ取ることが出来ます。江戸時代後期のわずか十数年の間に製作された「手彫り薩摩切子」はその代表のひとつ。無色のガラス生地と厚み3mm程度の鮮やかな色被せガラスとの境目にみられる「ぼかし」の表現は、手彫り薩摩切子ならではのものです。なお、近年当館の所蔵となった、《手彫り切子ガラス平鉢》を初めてお披露目します。収納箱の書付から長州藩の萩でつくられた可能性があり、現存数の少ない当時の萩製ガラスを考える上でも貴重な作例です。本展では、ガラス製の器や、櫛、筭といった装飾品をはじめ、ヴァラエティ豊かな約150件の和のガラスを展開いたします。暑い夏の日、「涼」と「癒やし」に満ちた会場に、ぜひご来場ください。

(中山 創太)



手彫り切子ガラス平鉢 萩製カ (当館蔵)

特別展

兵庫の書展

兵庫県書作家協会創立70周年記念

「二〇二〇令和からの発信」

令和2年7月23日(木・祝)～

9月22日(火・祝)

昭和25年(1950)に兵庫県各地で活躍する書作家が集まり、結成された兵庫県書作家協会は、安東聖空氏、深山龍洞氏、井茂圭洞氏など著名な書作家の方々の尽力により、漢字、かな、篆刻、前衛などの書を志す人々が、会派を超えて一同に集まるといって、他府県では例を見ない大きな規模の団体に成長しています。

当協会が今年で設立70周年を迎えるに当たって、右に記した書作家の作品を含む、県内の著名な書作家の作品を集めた展覧会を、開催します。

県下の著名な書作家の作品が一同に会する機会は極めて少なく、「書の魅力」を堪能していただく絶好の機会ですので、ぜひともご観覧ください。

(谷 正俊)

灘区 マヤカン (摩耶観光ホテル)

神戸歴史又見聞録 参拾伍

摩耶ケーブル虹の駅近くに位置する「マヤカン」こと摩耶観光ホテルは、いまや神戸を代表する廃墟として知られています。現在は特別なツアーに参加しなければ周辺に外観を見ることすらできないため、伝説的な近代遺跡としての関心がますます高まっています。

さてこのマヤカン、昭和4年(1929)もしくは翌年の竣工当初の用途は必ずしも明確ではありません。摩耶



摩耶山ホテルの一室 (『摩耶山案内』より)

鋼索鉄道株式会社(現在の摩耶ケーブルを最初に敷設・経営した会社)の福利厚生施設「摩耶倶楽部」として建設されたという説が一般に知られていますが、実際は竣工間もない頃から、一般向けの複合娯楽施設としてオープンしていました。

摩耶鋼索鉄道が昭和5年11月に発行した一般向けパンフレット『摩耶山案内』によるとこの建物には、数百名収容の多目的大ホール「摩耶山会堂」と、「摩耶山ホテル」「摩耶山食堂」「摩耶山温泉」があったことがわかります。それぞれの施設は別個の料金体系で、たとえ

ばホテルを短時間の休息に使ったり、入浴・食事のみの利用も可能でした。摩耶ケーブルの敷設(昭和3年)により、摩耶山天上寺への参詣が手軽になり、周辺は神戸有数

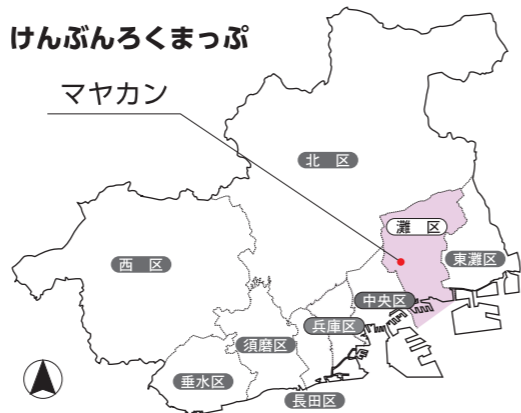


摩耶山温泉浴場 (『摩耶山案内』より)



摩耶山食堂 (『摩耶山案内』より)

の観光地として賑わいました。いま廃墟として名高いマヤカンは、かつては多くの観光客の様々な行楽スタイルに応じつつ、大阪湾の壮大な眺望も楽しめる、神戸ならではの人気スポットだったのです。(塚原 晃)



情報コーナーで 歴史的スポットへ



1階「情報コーナー」で利用できる「神戸の歴史マップ」では、古墳や寺社、近代建築、博物館施設など、市内に点在する歴史的スポット約200箇所を紹介しています。常設展示の「神戸の歴史」を見て、「この遺跡はどこにあるのだろうか?」と疑問に思ったら「神戸の歴史マップ」を開いてください。

そしてなんと!スマホなどQRコードを読み取る端末をお持ちの方なら、屋外でもこの地図を表示させて、そのナビゲーションで現地を訪れることもできます。まずは「神戸の歴史マップ」に表示のQRコードをスマートフォンに読み取らせてください。(塚原 晃)



神戸の歴史マップモバイル版

コレクション展示

美術

平井コレクション受贈記念

住まいを飾るたのしみ

令和2年3月17日(火)～
5月6日(水・振休)



エミール・ガレ「狐とカラス文花入」(1877年頃)

司馬江漢の風景画

令和2年5月8日(金)～
6月21日(日)

洋画コレクション

「空間を見極める」

令和2年9月1日(火)～
10月18日(日)

描かれた動物たち

令和2年7月4日(土)～
8月30日(日)

江戸時代の絵画には、さまざまな動物たちが描かれています。画家たちは動物を魅力ある姿で巧みに描きながら、そこに長寿や幸せといった願いや意味を込めていました。

この展示では、近世絵画コレクションのなかから、ネコ、イヌ、トラなどの動物たちが描かれた作品を紹介します。描かれた動物たちの魅力的な姿と、そこに込められた意味をぜひお楽しみください。

あわせて、新たにコレクションに加わった鶴洲「梅に鴛鴦図」も初公開します。鶴洲の高弟である鶴洲は、師の画風を継承した花鳥画を得意としました。なかでも「梅に鴛鴦図」はきわめて優れた出来栄であり、鶴洲の代表作といえるものです。この機会にぜひご覧ください。



鶴洲「梅に鴛鴦図」(天明2年「1782」)

コレクション展示

古地図

令和2年3月17日(火)～5月6日(水)は、「平井コレクション受贈記念 住まいを飾るたのしみ」展のため、古地図コレクション展示をお休みいたします。

地図でみる世界

令和2年5月8日(金)～
6月21日(日)

いまでも昔も、世界のすがたは人々の探求心をくすぐるテーマでした。近世の日本人がもっていた世界のすがたは、西欧からやってきた新しい情報に



「フィッセル改訂ブラウ世界図(写)」
(江戸時代後期)

よって大きく変化していきます。江戸時代の人々がみていた世界のすがたをご覧ください。

地図をつくる人Ⅰ 長久保赤水

令和2年7月4日(土)～
8月30日(日)

江戸時代の儒学者、長久保赤水の名前を知っている人はあまり多くないかもしれません。彼は江戸時代中期に、日本図をはじめ、中国図、世界図、歴史地図帳などを作った地図作製者でもありました。赤水の作った日本図は人気を博し、彼の死後も改訂されながら刊行され続けました。江戸時代を代表する人気地図作製者の歩みをご紹介します。

江戸時代の都市図

令和2年9月1日(火)～
10月18日(日)

三都と呼ばれる江戸、大坂、京をはじめ、各国の城下町などの都市が多く形成・発展したのが、江戸時代の特色です。都市を描いた「都市図」は、近世に作られた地図のなかでも主要なカテゴリの一つです。江戸時代に描かれた都市図を展示いたします。

コレクション展示

びいどろ・ぎやまん・ガラス

かわいい・びいどろ

令和2年3月17日(火)～
5月10日(日)

涼のガラス

令和2年5月12日(火)～
6月21日(日)

氷コップ、アイスクリームカップなど、清涼感のある近代のガラス器を紹介します。

びいどろ史料館コレクションの

絵画・文献資料

令和2年7月4日(土)～
8月16日(日)

ガラスが描かれた錦絵や引札、ガラスに関する文書資料を中心に江戸から明治時代のガラスを読み解きます。



乳白透かし桜文雷形ガラス杯
(大正後期～昭和時代)

輸入ぎやまん

令和2年8月18日(火)～
10月18日(日)

「ぎやまん」とは、江戸時代、長崎貿易を通じて、ヨーロッパから日本にもたらされていた高級なガラス器を意味していました。今日まで伝わる作例には、手に入れた日付や場所などの書付がある収納箱とともに残っていることも少なくありません。これは、当時のガラス器がいかに貴重であったかを示すといえるでしょう。

日本のガラス製造にも影響を与えた輸入ぎやまんの洗練された輝きの世界に迫ります。



カットガラス円形平鉢
(天保元年【1830】箱書き)

コレクション展示

考古・歴史

神戸レトロ名所案内

令和2年3月28日(土)～
6月21日(日)

開港以来、国際港都としての道を歩んだ神戸では、交通網が発達し、それとともに、人々は容易に行楽地へ向かうことがで

きるようになりました。本展では、当時の観光の雰囲気を感じさせるパンフレットや絵葉書などを展示します。近代神戸を探索しているかのような気分をひたつてみてはいかがでしょうか。※会期中に展示替を行います。



吉田初三郎 大神戸市を中心とする名所鳥瞰図絵 (部分、昭和5年【1930】)

神戸のお経

令和2年7月4日(土)～
9月22日(火・祝)

インドで誕生し、アジア各地に広まった仏教は、永い歴史の中で、人々の願いを受け止め、実に多様な展開を遂げました。そして、仏教が広まった各地域の思想、感性、美意識を反映した仏教に関するテキスト「お経(経典)」も実にヴァリエーションに富んだ内容を誇っています。

書写し誦誦すること、世界に対して大きな影響を与えると考えられた聖なる言葉・お経。神戸に伝来した中国、朝鮮半島、日本制作の名品を紹介し、古代・中世の人々の精神世界を探ります。



大般若経
(平安時代、北区奥蔵寺伝来)
神戸市指定文化財

『塵塚物語』の成立に関する一試論

―楠木正行と弁の内侍の挿話をめぐって―

下に掲げた作品は、『楠正行弁の内侍を救ふ図』と題されています。「内侍」とは、天皇に仕える女官の一つで、弁の内侍は、南北朝内乱で吉野に逃れた南朝の後醍醐天皇・後村上天皇に仕えたとされる人物です。楠木正行（楠正行、？―正平3年〔貞和4、1348〕）は、後醍醐天皇に仕えて足利尊氏と湊川で戦い敗死した楠木正成の子であり、父の遺志を継いで、南朝方の有力武将として戦いました。しかし、四條畷の戦いで、足利尊氏の側近の高師直の軍に敗れ、自害します。明治時代になって、神戸の湊川神社に、正成とともに祀られました。

作中で輿に乗っている女性が弁の内侍、側に立っている若者が楠木正行です。「内侍を救ふ」という題名ですが、いったい、弁の内侍の身に何が起こったのでしょうか。

よく知られている『太平記』には、この正行と弁の内侍の話は掲載されず、何が起こったのでしょうか。この問題の中にあります。実は、正行と内侍の挿話を記す物語集は、『吉野拾遺』・『塵塚物語』だけではありません。ここに、『文禄清談』という物語集をご紹介します。

この『文禄清談』には、寛文7年（1667）に書写したという記載のある本があり、それ以前の成立だといえます。また、書名の「文禄」から、文禄年間（1592―1596）以降の成立であることもわかります。内容も、「信長公御存生之時」（織田信長の没年は天正10年〔1582〕）という表現があるなど、文禄年間の成立を思わせるものとなっています。

ところが、この『文禄清談』には、奈良時代に造られたのち長く存在を忘れられ、万治・寛文年間（1658―1673）頃になって世に知られた「多賀城碑」の碑文が、具体的に掲載されています。「文禄」の年号を冠する『文禄清談』は、この矛盾に気づいていなかったわけではなく、話中で「多賀城碑」は永禄年間（1558―1570）頃に一度土中より掘り出され、文面だけが写し取られたのち再度埋められた」と

ていません。この話の初出は、『吉野拾遺』という物語に収録されている挿話だと考えられています。『吉野拾遺』は、以下のような顛末を語ります。

弁の内侍はとても美しかったので、足利尊氏の側近の高師直は、弁の内侍を自分のものにしようと企みます。師直は、内侍の継母をそのかし、吉野の山中にいる内侍へ「久しぶりに会おう」という内容の手紙を送らせます。内侍は継母に会うため輿に乗って吉野を出立しますが、道中、師直の家来によって連れ去られてしまいます。そこに正行が通りかかり、不審に思っって声をかけた場面が、本作品に描かれています。木陰に隠れている武器を持った男二人は、師直の家来たちで、正行を狙っています。

なお、この後、正行は無事内侍を救い出して、吉野へ帰還します。後村上天皇は事情を聞いて感嘆し、正

行に、内侍を妻とするよう勧めました。ところが、正行は、

とても世に 長らふべくも あらぬ身の 仮の契りを いかで結ばん
（この乱世にとうてい長く生きられるはずもない私のような者が、「内侍と結婚して」儚いかりそめの契りを結ぶことがどうしてできましようか。）と詠んで辞退し、その言葉通りまもなく、四條畷の戦いで命を落とすのです。

さて、正行のロマンスとして興味深いこの『吉野拾遺』の挿話なのですが、全く同じ挿話が、『塵塚物語』という物語集にも収録されています。『塵塚物語』は、作品末尾に天文21年（1552）成立の記述があることから、従来、中世に成立した物語集だと考えられてきました。応仁の乱の頃に山名宗全が、先例を大切にする公家に対して、「先例ではなく現在の状況を考えることこそが肝心だ」と言い放った挿話や、徳政令に乗じて宿泊中の旅人の所持品を奪い取ろうとした宿屋の亭主が、逆に旅人にやり込められて宿ごと奪われる挿話などが収録されており、日本史学では、中世後期の様子を活写する物語集として、しばしば引用されてきました。

『文禄清談』の本文は、重要な情報を一つ抜かしています。内侍が俊基（日野俊基）の娘であるという情報です。この情報がなくては、後に出てくる「行氏卿（俊基の兄）の北の方（正妻）」が、弁内侍の継母であるという関係が全くわからなくなり、話が繋がりません。なぜこのようなことが起きたのでしょうか。原因は、『吉野拾遺』に求められます。

『吉野拾遺』には、南朝弁内侍と申は、右少弁俊基朝臣のむすめなりとぞ。かたचितとうるはしく侍りけるを、いつの比なるにや、武さしのかみ師直、みそめ侍りつつ、あけくれこころにかけておもひくらしけるに⁴。

『文禄清談』

『塵塚物語』

『吉野拾遺』

『文禄清談』の本文は、重要な情報を一つ抜かしています。内侍が俊基（日野俊基）の娘であるという情報です。この情報がなくては、後に出てくる「行氏卿（俊基の兄）の北の方（正妻）」が、弁内侍の継母であるという関係が全くわからなくなり、話が繋がりません。なぜこのようなことが起きたのでしょうか。原因は、『吉野拾遺』に求められます。

シケルニ。

『文禄清談』の本文は、重要な情報を一つ抜かしています。内侍が俊基（日野俊基）の娘であるという情報です。この情報がなくては、後に出てくる「行氏卿（俊基の兄）の北の方（正妻）」が、弁内侍の継母であるという関係が全くわからなくなり、話が繋がりません。なぜこのようなことが起きたのでしょうか。原因は、『吉野拾遺』に求められます。

『吉野拾遺』では、この部分の直前に、内侍が登場する別の挿話があり、そこで彼女の出自を既に説明しています。そのため、この箇所には俊基に関する記述がないのです。

このように、『文禄清談』は、『塵塚物語』ではなく、『吉野拾遺』を参考にしたために、重要な情報を落としましたと想定されるのです。こう考えると、『塵塚物語』の実際



水野年方（楠正行弁の内侍を救ふ図）
（明治24年〔1891〕当館蔵）

『塵塚物語』と『吉野拾遺』との成立の先後関係について、ここで深くは触れませんが、『塵塚物語』が『吉野拾遺』より後に成立し、『吉野拾遺』を引用しています。

さて、この『塵塚物語』なのですが、天文21年の成立を、そのまま信じての成立は、『文禄清談』が成立した万治・寛文年間（1658―1673）に下ると推定できます⁷。他の挿話の比較検討も必要ですが、『塵塚物語』は、従来言われていたような中世の物語集ではなく、中世に仮託した近世の物語集とみられるのです。

（水嶋 彩乃）

1 『吉野拾遺』は、南朝の人々の逸話を集めた物語集で、作品末尾には、松翁という人物が、正平13年（延文3、1358）に著した旨が記されています。しかし、内部徴証から、成立年の上限は至徳元年（1384）であることが指摘されており、実際の成立年はさらに下ると考えられています。

小山多乎理『参考吉野拾遺』（六合館書店、1894）、今井正之助『吉野拾遺』と『理尽鈔』、『塵塚物語』考―『吉野拾遺』との関係―（『太平記秘伝理尽鈔』研究（汲古書院、2012）、初出2009、2006）等

2 『国史大辞典』「塵塚物語」等

3 岡部周三「吉野拾遺考」（『南北朝の虚像と実像―太平記の歴史学的考察―』（雄山閣、1975、初出1933））等

4 霞亭文庫本（元禄2年刊）、傍線部と句読点は筆者による、表記を読みやすく改めた箇所あり（以下の引用も同様）

5 内閣文庫所蔵本（寛文7年写）。「弁内侍」の横に傍注で「右少弁俊基女也」あり

6 内閣文庫本（延宝7年写）

7 『今井2012』は、『塵塚物語』と『天文雑説』との関係をもって、天文21年という成立年を疑い、成立時期は「下限を貞享元年（1684）に定めうるのみ」と指摘しています。

「神戸市交通名所図絵」

外題 神戸市交通名所図絵
内題 神戸市名所交通図絵
寸法 17.8×7.45
昭和五年九月廿五日印刷
昭和五年十月一日発行
発行所 神戸市電気局
著作権所有者兼印刷者 名古屋市外
犬山町日本ライン蘇江 吉田初三郎
編輯兼印刷所 名古屋市外犬山町日
本ライン蘇江 観光社

大正時代に入り、鉄道や汽船などの交通手段が発達すると、観光旅行が盛んになります。各地では観光客を呼び込むために、観光案内用のパンフレットを製作するようになりました。そこで活躍したのが、吉田初三郎です。初三郎は、大正時代後期から、鉄道会社や観光協会からの求めに応じて、全国の観光案内図を大量に作製しました。

本図は、発行所である神戸市電気局（現在の神戸市交通局）の依頼によって初三郎が作製した神戸の観光案内図です。表紙には楠木正成が描

かれています。観光案内図の表に神戸市域を中心に配した鳥瞰図が、裏に神戸市沿革、六甲山、大倉山公園、摩耶山本堂、湊川神社、布引瀧、高松跳上げ橋、生田神社、長田神社、諏訪山遊園地、須磨寺、神戸港、須磨海岸、神戸市電気局の写真と案内、絵に添へて一筆（昭和五年新秋）があります。絵に添へて一筆には「大観艦式を行はせ給ふに方り本図刻なりて世に出づ」と書かれており、本図が昭和五年10月26日に神戸沖で行なわれた特別大演習観艦式に際して発行されたことがわかります。

図中の文字情報340のうち、市電や市バスの停留所・駐車が135を占めています。凡例には「市電路線」「市電停留場」「市営バス路線」「市営バス駐車場」が示されている一方で、神戸市電気局以外は「省電」と「郊外電車」にまとめられています。本図の発行と同年の9月に、神戸市交通局は市電に加えて乗り合いバス事業を始めました。本図はその記念という意味もあわせ、神戸市電気局に関する情報が充実しているものと考えられます。（永山 未沙希）

参考文献
三好唯義「吉田初三郎の神戸市鳥瞰図について」、2007年人文地理学会研究発表要旨、p26-27.



神戸市交通名所図絵（表紙）
（昭和5年[1930]）



神戸駅周辺部分



凡例部分

講座・イベント情報

コートールド美術館展 魅惑の印象派
関連イベント

○記念講演会
6月6日(土) 14:00~15:30
「セザンヌの思想と芸術」
講師：永井隆則氏(京都工芸繊維大学准教授)
会場＝地階講堂(各日定員160名)
※聴講無料・各日先着順(当日お使いいただける本展観覧券が必要 当日13:00から講堂前で整理券をお一人様1枚ずつ配布し、定員になり次第終了)

○イブニングレクチャー
学芸員による展覧会の見どころ解説
会期中の毎週土曜日17:00~17:30
会場＝地階講堂(定員160名、当日先着順)
※聴講無料(当日お使いいただける本展観覧券が必要)

○子供向けイベント
【ジュニアミュージアム講座】事前申込

①4月26日(日) 手作りチューブ入り絵の具

②6月7日(日) 印象派で作る砂絵コースター

いずれも10:30~12:30

会場＝地階考古学習室

対象＝①小学1年生~6年生

②小学4年生~中学生

定員＝各16名(応募者多数の場合は抽選)

参加費＝500円(付き添いの方は、団体料金割引で特別展を鑑賞いただけます)

③こどもの日スペシャル 親子鑑賞会 申込不要

5月5日(火・祝)

午前の部：10:30~12:30

午後の部：14:00~16:00

会場＝地階講堂(各回定員50組、各回先着順)

参加費＝無料(保護者の方は当日お使いいただける本展観覧券が必要)

▶子供向けイベント申込方法

往復はがきに希望イベント名と番号(①②)、参加希望者の名前、年齢、電話番号、返信用の宛名を記入し「神戸市立博物館 子供プログラム係」まで送付ください。申込締切＝①4月11日(土)②5月23日(土)いずれも当日消印有効 応募多数の場合は抽選となります。

博物館ボランティア(学習支援交流員)による
ワークショップ

○4月11日(土) 浮世絵摺り師体験 13:00~14:00

○4月26日(日) 古代体験・・・拓本 14:00~16:00

○5月9日(土)

カードで麻のコースターを作ろう 15:30~16:30

○5月24日(日)

フランシスコ・ザビエルぬり絵 13:00~14:00

かみしばい「フランシスコ・ザビエル」

(2回)14:00~/15:00~

○6月13日(土)

かみしばい「伊能忠敬」(2回)14:00~/15:00~

古地図と現代地図を比べてみよう!

(3回)14:00~/14:30~/15:00~

会場＝1階体験学習室 対象＝小学生以上

参加費＝無料 事前申込不要 定員＝15名程度

当日の都合により内容の変更がある場合があります。

ご了承ください。

夏休み土器作り教室

粘土で縄文土器や弥生土器を作って、実際に焼いてみよう

①7月25日(土)または26日(日)各日10:30~16:00

土器を作る

②8月8日(土)10:00~16:00 土器を焼く(希望者

のみ参加) 天候不順の場合は8月9日(日)

会場＝①は地階考古学習室 いずれか1日(各日20

名ずつ)②は神戸市立自然の家(神戸市灘区六甲山町

中一里山1-1)にて現地集合・現地解散

対象＝小学校4年生から中学生

参加費＝子供一人当たり1500円

▶申し込み方法

往復葉書に参加希望者の全員の名前、①の希望日、学校名、年齢、保護者の方の名前、電話番号、返信用の宛名を記入し「神戸市立博物館 土器作り係」まで送付ください。1枚のはがきで子供3名まで申し込み可。①②の送迎または同伴は必ず保護者の方が行ってください。

申込締切＝7月10日(金)当日消印有効

※焼き上がった土器は、博物館体験学習室にて8月12日

(水)~18日(火)まで展示します(17日(月)は休館日。土

器の受け取りは8月19日(水)~30日(日)(24日(月)は休館

日でお渡し不可)の10:00~18:00までをお願いします。

※1枚のはがきで複数の講座へのお申し込みはご遠慮ください。
最新の情報は神戸市立博物館公式ホームページ (<https://www.kobecitymuseum.jp/>) をご参照ください。

活動記録



2019年12月15日
コーヒー染めで作るアンティーク古地図



2019年11月24日
親子鑑賞会